

かわら版 5

1978.8.24

現在の水質

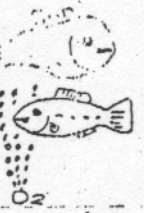
8月の10-15日の間は手賀や田
 余(高崎)でへい死が発生する年
 今年に入って最悪の状況で
 かえました。とくに、17日(高崎)は
 降、たり、風向が北に変わるなど
 して、水も急激に変わり、ひどい
 ハナアゲがみられました。この水
 域では、44ア(ゴロの一種)や
 エビ類のへい死もみられました。
 その後、他の水域は、アノコが適
 度にあって好ましく、状況は回
 復し現在に到っております。しか
 し、高浜入奥部の田余、下玉里で
 は、相当に悪い状況が続いて
 あります。
 (夜半から)
 さて、早朝にかけて、涼しく

か感じられ、稀に、刈りの風景
 が見られるようになりました。

長かつた夏も、もうケレです。
 水の方から考へると、もう一
 度、やま場が来るものと準
 備しておかねばなりません。

その時期は8月下旬からの月
 中旬で、一番、ヤッかいな季
 節です。

対策



酸欠の場合に、有効な方法の
 一つは、注水や曝気です。
 しかし、ただ曝気しただけ
 では、まわりへ、せっかく注
 入された酸素がにげて効果
 があがりません。ビニール
 シートでまわりを囲んで
 酸素が逃げないようにする
 ければより効果的。

この方法は、しかし、注水量や
 シートの張り、曝気量が
 足りないと場
 合には逆効
 果になります



すかう、十分点検して、あかなけ
 ればなりません。コイの酸素量
 は、トン当たり50Lです。かう、こ
 れだけの酸素が確保に供給され
 なければならぬがうです。田余
 ではこのポンプで、10面をま
 かまっております。1面当り、35ccの酸
 素を含む水が8秒の割合で給
 供されております。

「面当り」トン収容してあれば充
 分量といえます。長期にわた
 る低酸素条件にもかかわらず、
 最小の被害にとどまっておりますのは
 田余の組合員の並々なうぬ努めと

この注水のたまじものといえま
 しょう。
 エアレーションの場合には、
 水深2Mのところからで、50L分
 の通気が必要です。

このように対策(沖出しにして
 も)を行つには面数が数多くては
 不変ですから、今までどうりの密
 度にする方が、うす飼ひにして面
 数を減らすよりは、得策です。

これらの点検については、内水試
 に御相談下さい。

酸欠情報、茨城放送で

酸素量の観測結果にもとづく
 霞ヶ浦の水質概況が8月22日
 4時分から放送されることにな
 りました。



